



校歌・校章に込められた思い

校長 吉田 正行

音楽室から「やまなみこえてー ふーじーがよぶー」と元気の良い歌声が聞こえてきました。校歌の歌詞です。思わず、音楽室をのぞくとニコニコと大きな口を開けて一年生が校歌の練習をしていました。私は校歌の中で『生きるしあわせ 学ぼうよ』という歌詞が大好きです。

瓜生小学校の校歌ができたのは今から22年前。平成8年、南永山小学校と西永山小学校、東永山小学校の一部を統合して開校した際に制定されました。当時の記録を読むと、校歌と校章は当時の教職員、保護者、地域の方々の思いが込められていることが分かります。

記録には「学校のある多摩丘陵は、丹沢の山並みの向こうに富士山が呼びかけるようにそびえ、緑豊かな、自然に恵まれたところです。そこにある瓜生小学校では、友達がお互いを認め合い、仲良く助け合い、大きな夢を育てようと励んでいるのです。生きる幸せを学んでいくのです。多摩市は多摩ニュータウンといわれる地域が多く、桜やいちょうの街路樹が整えられ、それが季節を告げ、朝日が輝く、明るい街です。そこにある瓜生小学校では子供たちがおおらかな心をもって、大きな夢をさらにふくらませ、伸びていこうとしているのです。新しい学校の歴史、新しい自分の歴史を築いていくのです」という思いが書かれています。

また、タイトルにもある校章では、デザインの素材は寒葵（かんあおい）と桜・いちょう、山鳩が使われています。寒葵は多摩丘陵に古くから自生し、日陰でも力強く育つ多年草です。桜・いちょうは、校歌の歌詞から取り入れたそうです。山鳩は多摩市のシンボルの鳥です。

寒葵は一年中緑で一年中栄えるところから、瓜生の子に辛抱強くたくましく育ててほしいという願いを込め、その上に桜といちょうの風に舞っている姿を表し、子供たちを鳥に例えて飛ばしたという記録が残っています。

開校当時、関係者の皆さんが抱いた瓜生小学校への様々な思いと期待を大切に、これからも互いを認め合い、大きな夢に向かって我慢強く努力を続けられる子供たちに育てていかなければと心を新たにしました。

さて、明日からゴールデンウィークに入ります。2日には全校遠足、連休明けから運動会に向けての取組が本格的に始まります。子供たちの変化や体調の管理に十分気を付けて過ごしたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。



図工室と体育館の間に育つ寒葵

◆瓜生小学校では例年児童が「生活習慣の振り返り」を毎月行い、保護者からもコメントをいただくというカードを続けてきました。児童の意識も高くなり、成果が出てきています。そこで今年度から簡略化し、カードを使わずに瓜生小だよりの下に以下のような振り返りの欄を設け、お子さんと家庭で話題にさせていただくという形式に変更させていただきます。ご理解いただき、引き続き生活習慣の定着にご協力をよろしくお願いいたします。

挨拶・返事

自分から気持ちよい挨拶や返事をしましょう。……

優しい言葉

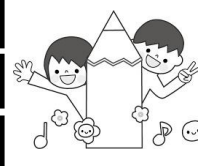
優しく心が温まる言葉づかいで話しましょう。……

学習・読書

家庭での学習や読書の時間を決めて取り組みましょう。…

親切な行動

親切な行動、助け合いを毎日欠かさず実行しましょう。…



□にふりかえりを記入する ◎…よくできた ○…ときどきできた △…あまりできなかった